

2024（令和6）年8月20日農村RMO中央研修会

B：【第2分科会】「卒業」をにらんだ持続的な農村RMOの経営

NPO法人ほほえみの郷トイトイへの質問内容

1. 行政の関わり

- 県や市がトイトイに対してどのように関わっていますか？
⇒県には地域運営組織として認識されており、中山間地域で活用できる行政の補助メニューの紹介などの支援がある。市は中山間地域での市の事業の委託や補助メニューの紹介などかわりがある。
- 実際にどのような支援を受けましたか？
⇒惣菜加工場を整備するときに県と市から補助金の交付を受けた。

2. 組織体制と運営

- 現在の運営メンバーの人数、男女比、年齢について教えてください。
⇒スタッフ11名（男6、女5）、地域おこし協力隊3名（男2、女1）
20代1名、30代2名、40代5名、50代4名、60代2名
- NPO法人化を選んだ理由を教えてください。
⇒任意団体発足時に2年後の法人化を考えており、実際に法人化する際に利益を個人に分配できないNPO法人が目指す理念に合っていたから
- 初期の仲間やNPO法人立ち上げ時のメンバーについて、その背景や役割も含めて教えてください。また、外部の協力者や伴奏支援はありましたか？
⇒地域づくり協議会所属の各団体から推薦をうけた個人28名で任意団体として事業を開始し2年後同様のメンバーでNPO法人として立ち上げた。
メンバーの背景は地元で各団体に所属し役員を務めているものや地域のイベントなどで活躍していたものなど。
外部の協力者や伴奏支援はなし。
- 各メンバーの負担を軽減するために工夫したことは何ですか？
⇒メンバーの中でプロジェクトチームを5名で立ち上げ、調査や事業案のづくりこみなどをすることで会議の回数を減らした。
- 事業を推進する組織と・検証する組織の仕組みについて教えてください。
⇒もともと存在していた地福地域づくり協議会は地域づくり計画策定や毎年の進捗共有を行う組織とし、新たに立ち上げたNPO法人ほほえみの郷トイトイの前身である地福ほほえみの郷運営協議会を事業運営組織として立ち上げ地域拠点の運営を行った。
両団体は双方の会長を副会長とし両団体の事務局長を自分が兼務することで車の両輪として地域が目指す方向に進んでいけるよう仕組みを作った。

- 既存団体とのすみわけや、地域内での立ち位置について教えてください。
⇒自治会や婦人会など既存の地域団体の活動が円滑に進むようを支援する形で地域拠点を運営し、課題解決のための事業を構築するとともに、地域のニーズを整理し行政等へ提案する役割を果たしている。
- トイトイ工房立ち上げの原動力やスタートまでの道のりについて教えてください。
⇒原動力は、自ら地域のために自分たちが出来ることを見つけ行動した当時 70 代の女性のみなさんだと思います。地域の人が手作りの総菜を求めていることを聞き、自分たちが惣菜工房を立ち上げることを決めグループを立ち上げました。一年後、NPO 法人として総菜加工場を整備し事業を統合しました。
- NPO の核となっている人について教えてください。
⇒理事長のほか事務局長、事務局長補佐の 3 名が中心です。

3. 収益事業と経営の工夫

- NPO 法人としての収入源や財源確保の方法について教えてください。
⇒事業収入及び受託事業収入が中心で、必要なプロジェクトについては補助金、助成金を活用します。
- 安定収益を確保するためのビジネスの柱について教えてください。
⇒なかなか安定収益の確保は難しいですが、現状は移動販売事業が柱になっています。
- 事業全体の売上高と利益、移動販売車の運行状況や人員配置について教えてください。
⇒事業全体の売上は約 9000 万ですが利益は±0、移動販売車は月～金まで 2 台体制で 1 日 50 件程度を訪問しています。各移動販売車とも販売スタッフ 2 名体制です。
- トイトイ工房の従業員数、売上推移、お惣菜の品目数・内容・単価について教えてください。
⇒1 日当たり 3 名～4 名、年間 1500 万程度、1 日 4～5 品目、単価は 200 円から 400 円、品目は 40～50 品目
- 移動販売が黒字化できている理由や、課題について教えてください。
⇒顧客との信頼関係、今後さらに需要が高まった時のスタッフの確保と燃料費等経費の高騰への対策
- ミニスーパーや総菜づくりのスタッフの人件費が売り上げで賄えているか、また働く人の賃金や職員の給与について教えてください。
⇒売上だけで人件費を賄うのは難しく、その他事業受託など多方面の取り組みの中で必要な人件費を捻出している。

4. 地域住民との関わりと共感の醸成

- 住民の参加を促すための工夫や、反対派への対応方法について教えてください。
⇒理念を明確にし、地域の将来ビジョン実現に向けて取り組みを続けることで、共感を得た。仲間が増えていった。
反対している人も応援したくなるようやりきること。
- 共感によるつながりを築くために必要な仲間や、価値観の共有が難しい場合の対応について教えてください。
⇒それぞれの立場の人が少しずつ共感できるよう、誰もが幸せになるストーリーを描くよう心掛ける。
今という時間軸だけで議論するのではなく地域の将来にとって何が重要かという視点で議論することで目指すべき方向のベクトルは合わせることができるのでは。
- 住民からトイトイの活動に興味を持ってもらうための取り組みや、意外な反応について教えてください。
⇒これまで地域で誰もやらなかったことでも必要なことがあれば取り組む。前例のないことに取り組み小さな成功を体験することで地域住民のモチベーションは変化していった。

5. 人材確保と後継者育成

- 新規事業のためのスタッフ確保や、後継者育成のための対策について教えてください。
⇒日頃から地域での情報収集をかかさず常に人材確保の視点で地域の人に目を配る。
後継者育成については、現状のスタッフが活動に誇りを持ち笑顔で取り組むことで、いつか志を継ぐものが出てくるよう期待している。
- プレーヤー不足に対する取り組みや、仲間づくりの方法について教えてください。
⇒地域おこし協力隊などの制度も活用し地域内外からプレーヤーを増やす取り組みを行っている。
仲間作りについては、プラス思考でワクワクしながら取り組むことで仲間が増えていった。

6. 地域の合意形成と住民の価値観

- 幸せの価値観を共有する方法や、地域全体の共感が形成されるまでの過程について教えてください。
⇒最初はなかなか理解してはもらえませんでした。トイトイの取り組みが地域の誰にとっても笑顔と安心につながっていると感じてもらえるよう少しずつ取り組み続けることで共感が広がっていったように感じています。

いろいろと批判や中傷の声もありますが、信じてやりきることで3年から5年くらいで地域全体の感覚は変化していくと思います。理念を明確にしぶれずに取り組み続けることが大切だと感じています。

- 高田さんがどのようにビジョンづくりや地域住民の意見を聞いたか、また地域での立場や取り組みのきっかけについて教えてください。

⇒会議ではなかなかほんとの声は聴けないので、いろいろな団体の会合などに出向き少し時間をもらって雑談の中で、皆さんが求める地域の将来像を聞いていきました。

取り組みのきっかけは、地域づくり協議会の会長さんに声をかけられたことです。

7. 外部との連携と新規事業の推進

- 外部企業からの注目を集めるための工夫や、外部コンサルの活用について教えてください。

⇒これから先の社会に向けて課題解決に取り組むことで、同じ理念を目指す企業とつながる可能性は高まるのでは。

外部コンサルの活用については、慎重に検討し活用することがプラスになるようなら良いと思いますが、地域づくりにおいてはあまり重要でないと思います。

他地域で地域づくりの実践経験のある方を伴奏者に選定した方が効果的だと考えます。

8. 地域住民の参加意識とアプローチ方法

- 若い世代や働き盛りの住民に対するアプローチ方法や、関心度合いについて教えてください。

⇒ボランティアでの協力が苦痛にならないよう、時間に余裕があればかかわってもらうくらいの感覚でアプローチした方が良いと思います。

関心度合いについては高くないかもしれませんが、自分たちが将来安心して暮らせるための取り組みだと感じたときにかかわりを強めてくれると考えています。

10. その他の地域振興に関する課題

- 交流、関係人口、定住に向けた取り組みや計画はありますか。

⇒関係人口創出に向け少しずつ新たな取り組みを進めています。

- 若者のUターンや地域の人口動態について教えてください。

⇒2010年山口市と阿東町の合併時7000人程度の人口が2024年では5000人を切り高齢化率も60%を超えている。

若者のUターンは進んでおらず少子高齢化が進んでいる。

- 介護予防事業の実施体制について教えてください。

⇒週2回、送迎付きで実施。スタッフ2名体制で実施している。

11. その他

- 少年野球の指導と地域振興に共通する事項について教えてください。
⇒正しい練習を正しいモチベーションで行えば、必ずうまくなるのと同じで、地域づくりも地域が目指すべき方向に向けて正しいモチベーションで行えば、地域は変わると思います。
やらされる地域づくりから、自ら考え取り組む地域づくりに変えていきましょう。
- 名前の由来について教えてください。
⇒山口市阿東地福地域には、江戸時代ごろから続く伝統行事「地福のトイトイ」というものがあり、形を変えずに続けていたことで2011年に国の重要無形民俗文化財に指定された。2012年に地域拠点設立に向けて名称を公募したところトイトイを名称にという声が多く名付けられた。